

A 学校教育目標

ふるさとに誇りをもち、今と未来の幸せをつくる学校 ～共生 凡事徹底 挑戦～

B 生徒会テーマ

「Smile」 ～笑う門には幸来たる～

C 目指す生徒像

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1 共感的協働力のある生徒 | ～ 相手を尊重し、仲間と力を合わせて考え、想像する |
| 2 主体的実践力のある生徒 | ～ 自ら課題を見付け、考え、判断し、よりよく行動する |
| 3 自己肯定感・自尊感情をもった | ～ 二つの仁感情を高め、成長思考で行動する |

J : 時 間 (見 通 す 力)
 A : あいさつ・言葉 (伝 える 力)
 K : 聴 く ・ 姿 勢 (受 け 止 め る 力)
 S : 整 理 整 頓 (整 え る 力)

D 今年度の重点

未来につながる豊かな人間性と社会性の育成

- 自己肯定感と自尊感情の育成
- 全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実
- いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織

未来につながるふるさとキャリア教育～「たしろDREAM計画」

- 郷土愛の醸成と地域貢献力を育てる体験活動
- 地域の教育資本（ヒト・モノ・コト）と関わる体験・交流活動
- 望ましい職業観や勤労観を育む体験活動
- 社会における役割や将来の生き方生き方を学ぶ活動

未来につながる確かな学力の育成

見方・考え方を働かせ、社会の中で生きて働く確かな学力を身につける生徒の育成
～生徒が自ら学び続けるために～ ※「見方・考え方」とは…課題を解決するための鍵となる「視点」や「考え方」

共通実践事項1【(1)(2)を単元（題材）や授業の中に組み合わせて、深い学びを目指す】

(1)生徒一人一人が最適に学べる支援の工夫 (2)他者の考えを大切に、協力しながら課題解決を目指す「樹林タイム」の設定

共通実践事項2【授業力向上のため、全教科共通して実践する】

・ICTの活用 ・明確なゴール ・板書計画・発問の精選 ・同じベクトルでの授業改善 ・ユニバーサルデザイン ・個の見とり

全教育活動を通して育成を目指す資質・能力

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| I JAKSを基盤とした人間的基礎力の育成 | III 全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実 |
| II 主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成 | IV いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織的対応 |

ふるさとへの誇りや自立の気概を育み、未来につながる「ふるさとキャリア教育」の充実

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| I 郷土愛の醸成と地域貢献力を育む体験活動 | IV 社会における役割や将来の生き方を学ぶ活動 |
| II 地域のひと、もの、ことと関わる体験・交流活動 | V 田代地域学校協働支援チームでの連携・協働 |
| III 望ましい職業観や勤労観を育む体験活動 | |



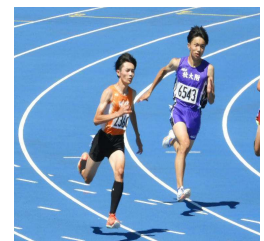
【大北総体優勝(全県出場) 野球部】



【大北総体優勝(全県出場) 女子バレーボール部】



【大北総体団体優勝(全県ベスト8) 卓球部】



【200m 大北1位 全県4位 東北大会9位 佐藤惺多 陸上部】



【1年生ながら全県出場を決めた水泳部】



【県北コンクールで金賞 全県コンクールで銀賞 吹奏楽部】



【たけのご祭りでの田っ中ソーラン】



【雨の中感動を生んだ体育祭】

ア 生徒の状況	自己評価Aと外部 評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意欲も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
		おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

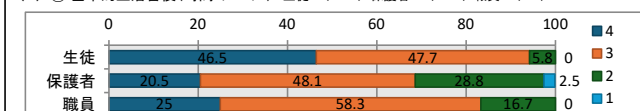
I 自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし規律ある落ち着いた生活を送りながら主体的実践力を育もうとしている。 互いに認め合い、協力し合いながら安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。	前期	良好	良好	自己肯定感や、支え合い認め合うことに関するアンケートの数値が向上していることから、大変よい状態にある。今後、社会に出たときにもこういったよい面を発揮できるように指導してもらいたい。その第一歩として、校内で聞かれるくらいのあいさつを地域や校外でもしてもらいたい。また、授業の発表時の声のトーンとボリュームをもっと上げてほしい。
自己評価 学校の概要 改善と策	年度			
	【前期(→年度)】 多くの項目で昨年度同期と比べて上昇している。特に(2)生徒理解と自己有用感・自尊感情の上昇幅が大きく、キャリアアップシートの活用をはじめとして、個々の自尊感情を高められるように指導してきたことが上昇につながったと考えている。 (1)→①基本的的生活習慣(時間・ルール)について保護者の肯定的回答が7割弱にとどまっているのは、アンケートの自由記述欄を通して、自転車通学時の交通ルールに関して心配な点があるからと把握しており、機会をとらえて指導してきたが、今後も事故防止の観点から丁寧な指導を心掛ける。 【年度(→次年度)】			

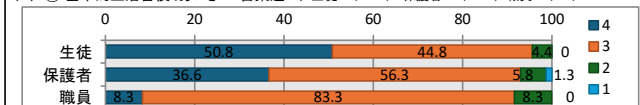
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
1 JAKS:基本的な生活習慣の確立 TPO:人間的基礎力、共感的協働力の育成	(1)基本的な生活習慣の確立(時間管理、挨拶・言葉遣い、聴く・姿勢、整理整頓)	・樹林ノートを活用した見通しのある生活、風紀委員会による推進活動 ・時と場に応じた挨拶、人の話に傾聴する姿勢や態度の向上→(凡事徹底)	4	4		
	(2)生徒理解とよさを伸ばす関わりによる自己有用感・自尊感情の醸成	・学級、生徒会活動の見届け、称揚と生徒同士が認め合う場の設定→(共生) ・アセス、いじめ調査等のデータを活用・共有した生徒支援	4			
	(3)目標の設定と振り返りによる主体的実践力、共感的協働力の育成	・樹林ノート等を活用した、学期や長期休業の目標設定と振り返り→(挑戦) ・目標の実現に向けた、共感的・協働的に高め合う場の設定	4			
2 共感的風土の中での活気ある個と一体感のある集団づくり	(4)互いに支え合う個・集団づくり ・学年、学級経営、学級活動	・学年委員会の機能を生かした学年集会の計画と実施 ・学校行事に向けた目標設定及び事後の活動の振り返りの場の保障と価値付け(田中キャリアアップシート)	4	4		
	(5)主体的実践力・共感的協働力の育成と学校生活の向上 ・生徒会活動(執行部、専門委員会)	・生徒会テーマに基づいた日常活動の工夫 ・学校生活の向上を目指すための生徒会活動の充実 ・地域と積極的に関わる活動の充実	4			
	(6)共感的・協働的活動による所属感、連帯感、自己有用感の醸成 ・体育祭(田中ソーラン、応援合戦)、学校祭(合唱コンクール、学年発表)、地区ボランティア(夏・冬)	・全校が一丸となって、活気をもって取り組めるような行事の計画、実践 ・縦割りの機能を生かした一体感のある活動(体育祭、地区ボランティア等)	4			

(主なデータ) 4…そう思う 3…ややそう思う 2…あまりそう思わない 1…そう思わない ※数字はR7前期平均(←R6前期平均)

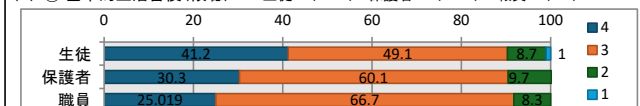
(1)→① 基本的的生活習慣(時間・ルール) 生徒3.4(←3.5) 保護者 2.9(←3.0) 職員3.1(←3)



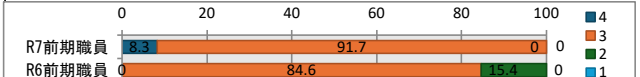
(1)→② 基本的的生活習慣(あいさつ・言葉遣い) 生徒3.5(←3.5) 保護者 3.3(←3.1) 職員3.0(←3)



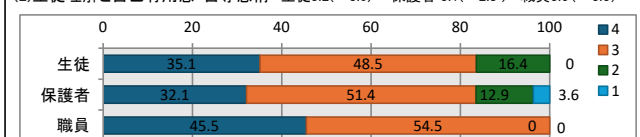
(1)→③ 基本的的生活習慣(傾聴) 生徒3.3(←3.2) 保護者 3.2(←3.0) 職員3.2(←3)



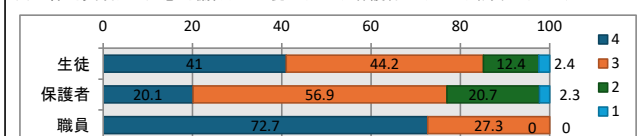
(1)→①～(1)→③ 基本的的生活習慣の総合 職員3.1(←2.8)



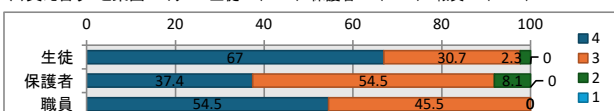
(2)生徒理解と自己有用感・自尊感情 生徒3.2(←3.0) 保護者 3.1(←2.8) 職員3.5(←3.3)



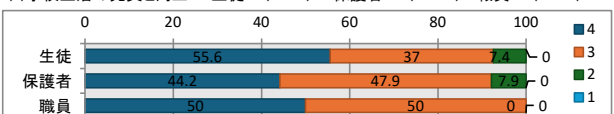
(3)主体的実践力と共感的協働力 生徒3.2(←3.3) 保護者 2.9(←3.0) 職員3.7(←3.1)



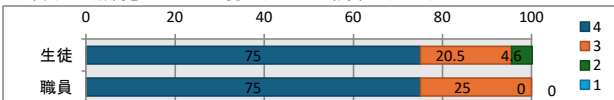
(4)支え合うこと集団づくり 生徒3.6(←3.7) 保護者 3.3(←3.1) 職員3.5(←3.0)



(5)学校生活の充実と向上 生徒3.5(←3.6) 保護者 3.4(←3.3) 職員3.5(←3.3)



(6)集団への所属感 生徒3.7(←3.8) 職員3.8(←3.8)



■データから見える成果と課題

- JAKSによる基本的な生活習慣が、昨年度に比べると生徒、保護者、職員の自己評価に差が見られなくなってきた。学校生活と家庭生活ともに意識が高まってきた。
- 昨年度から、SOBA-SET等により、生徒理解を深め、個々の生徒の自尊感情が高められるように指導してきた成果が出てきており、8割以上の生徒が自信をもって活動できていることが分かる。
- (4)どちらも数値がとて高くなっている。道徳教育と学校行事やキャリア教育を融合させ、各行事の実施計画には関連する道徳の内容項目を明確に記入するようにした。このことにより、明確な目的をもって指導にあたることができた。また、「キャリアアップシート」によって、生徒も自分で設定した目当てを達成できるよう努力するとともに、身に付けるべき資質・能力を意識しながら活動することができていた。
- ～(6)

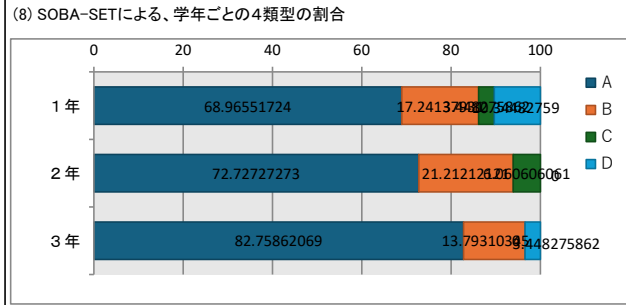
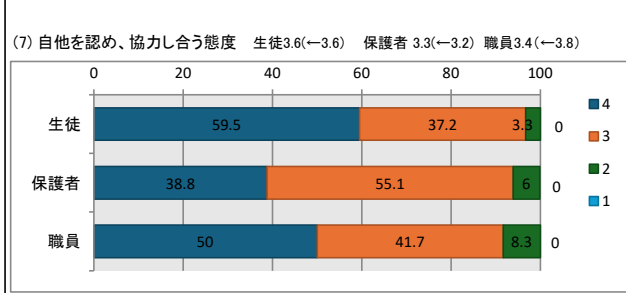
全般的に高い数値を示している。「キャリアアップシート」では「チームワーク」が身に付いていると自己評価する生徒が多い。部活動や「田中ソーラン」、学校行事、学年行事、日常の生活での活動を通して、所属感をもつことができた。特に、部活動は、全て全県大会に出場しているためなおさらである。

ア 生徒の状況	きわめて良好	自己評価Aと外部 評価の評価区分	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意欲も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好			4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好			3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分			2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する			1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

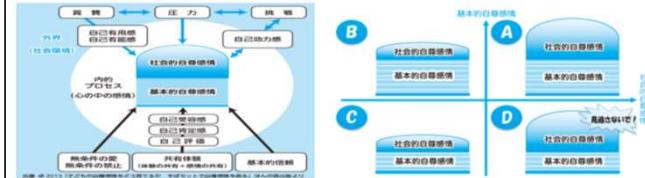
Ⅱ 思いやりの心・たくましい心				
生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
集団や社会における人間関係の形成と、よりよく生きるための考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	前期	良好	良好	互いに認め合い団結する力が育っている。多少のトラブルがあっても自分たちで解決する力も育ってきている。先輩、後輩などの上下関係に気を配ったり、もっと活発なコミュニケーションがとれるようになることが望まれる。
	年度			
自己評価の概要 学校との改善策	【前期(→年度)】	自他を認め、協力し合う態度について、3または4の回答をした割合が生徒・保護者・職員全てにおいて9割を超えている。しかし、4の回答割合が昨年度前期と比較して下がっているため、今後も教育活動全体で生徒の思いやりの心を育み、思いやりをもって行動することのよさを実感できるようにしていきたい。そのために、週1回の道徳を大切にしながら、SGEを継続して行ったり、別業を活用することで見通しをもって指導に当たったりしていきたい。郷土愛については、生徒と職員において高評価であった。5月の職場訪問や職場体験、修学旅行での学びが充実していたことが大きな要因の一つと考えられる。その学びを将来につなげていくために、未来を語る会を充実したものにしたい。2年生のSOBA-SETの結果では、社会的自尊感情の割合が高い傾向が見られるので、結果に至る過程を重要視した指導を心がけたい。また、生徒同士においても目標やゴールに向かってどのように努力していたか認め合う場を設定するなどして基本的自尊感情を高めていくようにしたい。		
	【年度(→次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
3 よさの伸長と豊かな心と自立心	(7) 自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成 ・教育活動全体を通じた道徳教育と「考え、議論する道徳」の充実	・学校と学年の重点目標を位置付けた計画と実践(道徳教育全体計画別業の活用) ・創意工夫を生かした教育活動と関連付けた道徳の実践 ・道徳集会(全校生徒で「考え、議論する」場)の設定	4			
	(8) ふるさとを愛し、積極的に交流・貢献する生徒の育成 ・職場見学、地域訪問、職場体験、キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動等	・職場見学、地域訪問、職場体験の充実 ・キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動などを通じた郷土愛の醸成 ・ボランティア活動、地域行事、子どもハローワークへの参加の推進 ・活動の振り返りの設定と価値付け(ポートフォリオ、樹林N、特活F、キャリアパスポート、キャリアノート)	4			

(主なデータ)



A 自尊感情の構造図と4つの分類



B SOBA-SETアンケートによる基本的自尊感情と社会的自尊感情の平均値

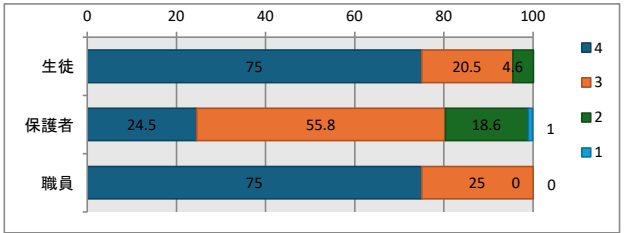
	基本的自尊感情の平均	社会的自尊感情の平均
1年	16.5	16.7
2年	14.3 (16.5)	15.4 (14.6)
3年	15.7 (15.3)	14.9 (15.2)

※どちらも満点は24点 () は昨年の前期の数値 (3年は2年の5月、2年は1年の5月)

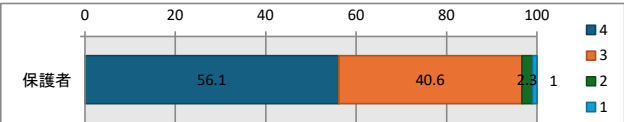
C SOBA-SETアンケートによる基本的自尊感情の分布表 (人)

	6-7	8-10	11-12	13-15	16-17	18-21	22-24
1年							
基本的自尊感情			1	12	6	7	3
社会的自尊感情		1	3	7	7	9	2
2年							
基本的自尊感情		1(3)	16(10)	9(5)	6(14)	(1)	
社会的自尊感情	1	4(3)	4(7)	13(8)	7(11)	4(4)	
3年							
基本的自尊感情		1(1)	3(1)	15(16)	5(5)	5(6)	
社会的自尊感情		4(5)	2(1)	6(6)	9(11)	5(5)	3(1)

(8) 郷土愛 生徒3.6(←3.6) 保護者 3.0(←3.2) 職員3.8(←3.4)



(7)(8) 活躍の場 保護者3.4(←3.3)



■データから見える成果と課題

(7) 昨年度前期とほぼ変化はないが、職員の評価が下がっている。友達に心ない言葉を発したり、意地悪をしたりする生徒もわずかながらいる。

(8) 2年生のSOBA-SETの結果Bの平均値が、基本的自尊感情<社会的自尊感情となっている。結果を出さなければならないという思いだけがとても強くなってしまっていることが分かる。

ア 生徒の状況	きわめて良好	自己評価Aと外部 評価の評価区分	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好			4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好			3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分			2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する			1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

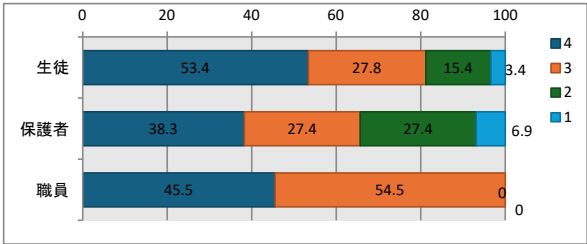
Ⅲ 基礎学力

生徒の状況			自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、共感的・協働的な学び合いを通して「おおだて型学力」を向上させようとしている。	前期		おおむね良好	おおむね良好	先生の数が昨年よりも1名減ったことにより、どの教科においても、全学年の生徒を一人で見なければならぬ状況になってしまった。少人数学習はできなくなったが、現2、3年生の学習面での向上が見られる。
	年度				
自己評価 学校の概要と改善策	【前期（→年度）】 （9）について、教員の肯定的な意見が増加した。学習委員とともに生徒の学習意欲向上に取り組んでいることや、樹林ツアーや研究授業等による授業改善に励んでいることが奏功したと考えている。（10）について、生徒が主体的に課題を追究する授業実践について、職員の意識が昨年度よりも高い。今後も各教科等で、生徒が「見方・考え方」を働かせられるように授業の工夫を行い、主体的に課題に取り組める生徒を育てていく。今年度の重点である、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を単元の中に取り入れていく。（11）について、授業内容を理解することができていない生徒が各学年で4～6％（2～3人）いて、困り感をもっていることが分かる。全ての生徒が同じ土俵に立てるよう、指示や発問をシンプルかつ明確にし、UD（視覚化、共有化、焦点化）を意識した授業を継続していく。				
	【年度（→次年度）】				

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
4 一体感と活気のある学習活動	(9)基本的な学習習慣の確立と主体的な学習の充実	・「田代中学習の約束」を基盤とした基礎・基本の定着 ・学習、ICTオリエンテーションによる生徒の学習意欲の向上と授業を見合う会(樹林ツアー)、研究授業等による授業改善 ・学習委員会による学習状況の評価と課題改善に向けた活動の充実	3	3		
5 授業改善への取組	(10)生徒一人一人が自分の考えをもち、共感的・協働的に課題を追究する授業実践	・各教科で働かせる「見方・考え方」や育む資質・能力を明確にした単元(題材)構想と授業デザインの工夫 ・学び合いの時間「樹林タイムD・F」の実施と教師のコーディネート ・自己の変容や学びを自覚させるためのつながりを意識した振り返り	3			
6 諸検査の分析と活用	(11)学習状況調査等の分析と指導方法の改善	・各種テストの分析と適切な回復指導 ・形成的評価を生かした学習状況の把握と回復指導	3			

(主なデータ)

(9) 家庭学習の継続 生徒3.3(←3.6) 保護者 3.0(←3.0) 職員3.5(←3.1)



《生徒も教師も学び合いの授業》 ～ 樹林ツアーより



【保体】

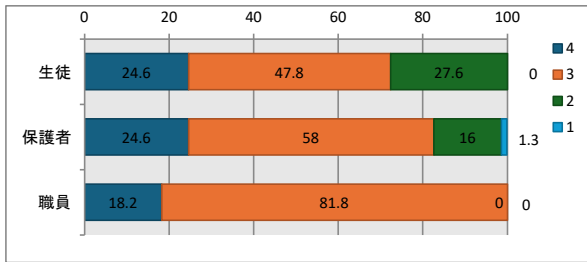


【社会】

(10) 主体的・協働的授業 生徒3.0(←2.7) 保護者 3.1(←3.1) 職員3.2(←2.8)

生徒:授業では自分の意見や考え、疑問などを述べるようにしていますか。
保護者:学校は授業の工夫をしたり、タブレットパソコンなどICTを活用したりしていると思われますか。

職員:生徒が主体的に課題を追究する授業実践



【美術】



【英語】



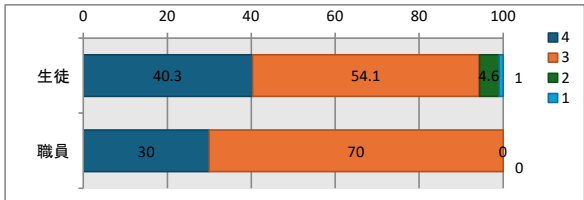
【音楽】



【理科】

(11) 諸検査の分析と活用・授業の理解 生徒3.3(←3.3) 職員 3.3(←2.8)

生徒:授業の内容をおよそ理解することができていますか。
職員:各種テスト、評価、学習状況調査等の分析と回復指導



■データから見える成果と課題

- (9) (10) 家庭学習と授業改善については、保護者の肯定的回答は変わらないものの、生徒と職員は大幅に増えている。保護者は、普段の家庭学習量や時間、成績結果(テスト)から判断していると考えられる。
- (11) 各学年とも4～6％(2～3人)の生徒が授業を理解できないと困り感をもっている。授業改善によって応用力を身に付けるための授業も大切だが、このような生徒が、せめて授業内容の半分程度は理解できるための工夫と支援が必要である大切である。

ア
生徒の状況

自己評価Aと外部 評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意識もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

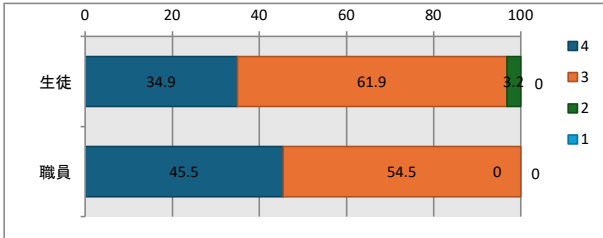
Ⅳ 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
教職員が学校教育目標及び重点事項等を踏まえた主体的、組織的な取組を行っている。	前期	良好	良好	教職員の研修が盛んに行われており、常に学びながら、チームとして業務に当たっている。どの先生の表情も明るく、元気に頑張っている姿が子どもたちにもよい影響を与えている。
	年度			
自己評価 学校の概要と改善策	【前期(→年度)】 どの項目においても職員の自己評価が高くなっている。昨年度に引き続き、年度初めのSOBA-SETによる生徒理解や、職員会議における生徒指導に関する研修によって、教育活動全般のベースが生徒指導であるという意識が職員の中で高まっていると思われる。特に(14)については昨年度から、道徳教育を根幹とした行事運営も行っていることが、高評価につながっていると思われる。また、体育祭、地域行事、部活動等、様々な行事は、社会の変化に対応しながら、また生徒の実態に応じながら計画、実行されていることも成果である。しかしながら、生徒や保護者の評価に目を向けると、「学校は生徒や保護者の悩みや相談を聞いて対応しているか」の項目で「2」と「1」と回答している人が1割程度いる。今後も職員の生徒理解、指導の充実させながら、集団を見つつ、個々にも目を向ける指導体制、チーム対応を図っていこうにしたい。			

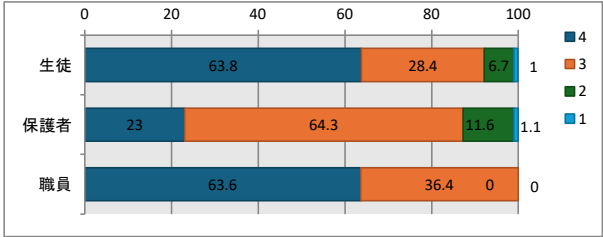
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
7 組織的な学校運営	(12)学校教育目標・目指す学校像・生徒像実現への取組 (共通理解・共通実践・凡事徹底・組織力を生かしたチーム対応)	・目標の実現のための三つの柱(確かな学力の育成、豊かな人間性と社会性の育成、「ふるさとキャリア教育」の充実)に基づく共通実践 ・目的と手段を明確にした教育活動の展開と全ての教育活動を通して一人一人が身に付ける資質・能力(JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働能力、自己有用感・自尊感情)の育成 ・目標の実現のための学校評価等の活用と改善	4	4		
	(13)生徒理解を深め、課題予防的生徒指導の実践	・教育相談・アセス・SOBA-SETの実施、教員間の共通理解とチーム対応 ・不登校、問題行動についての共通理解と支援体制の構築 ・生徒の健康に関する共通理解と健康意識の向上を期した掲示環境の整備 ・望ましい生活習慣の確立を目指した保健指導と食育	4			
8 教育課程の編成と実施・改善	(14)社会に開かれた創意ある教育課程の編成	・ふるさとキャリア教育を充実させる総合・特活・各教科との関連を図った計画 ・見通しのもてる年間計画・月計画・週計画の作成と運用	4			
9 教職員の研修	(15)研修及び授業研究会を通じた指導力の向上	・校内研修会(ICT、夏季、冬季)の充実 ・教科を越えて全員で研修する指導案検討会と授業研究会 ・毎月1回「授業を見合う時間」(樹林ツアー)の設定	4			

(主なデータ)

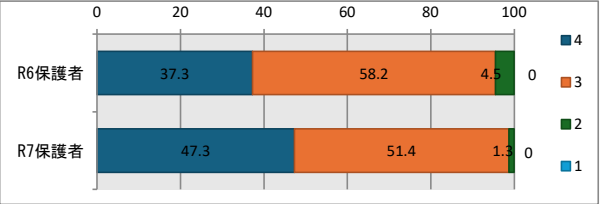
(12)組織的な学校運営 生徒3.3(←3.4) 職員3.5(←3.3)



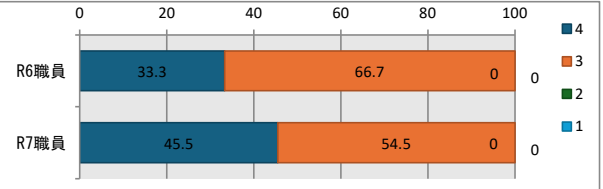
(13)心と体の健康(主に心の健康) 生徒3.5(← 3.5) 保護者3.2(←3.1) 職員3.5(← 3.5)



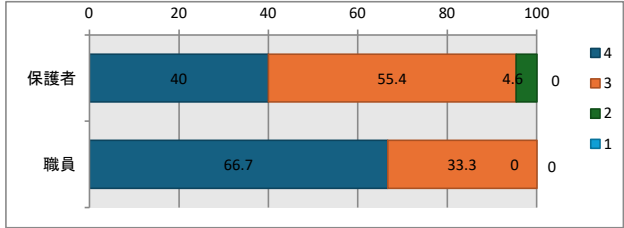
(13)-① 心と体の健康(主に体の健康) 保護者3.5(← 3.3)



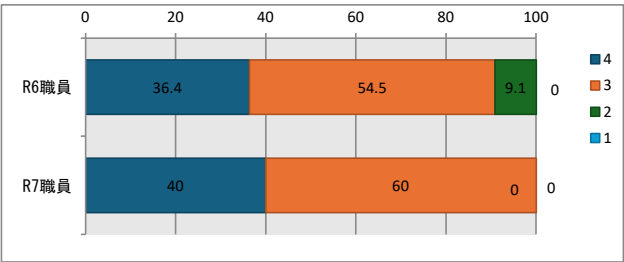
(13)-② 心と体の健康(全般) 職員3.5(← 3.3)



(14)社会に開かれた特色ある教育課程 保護者3.4(←3.4) 職員3.7(←3.3)



(15)研修・授業改善 職員3.3(←3.1)



■データから見える成果と課題

- (12) 学校教育目標の具現化のために、職員がチームとして組織的に取り組むことができた。職員がいつも明るい学校だからこそ、職員の自己評価も高くなっている。部活動での活躍など、楽々学校づくりができています。
- (13) 生徒指導に関する研修は常に重点的に研修しており、生徒理解に努めているため、全体的に数値は高くなってきている。
- (14) 昨年度から行っている道徳教育を根幹としたカリキュラムマネジメントを進めているため、職員の自己評価はとても高い。
- (15) 「授業スケール」をもとにして、全教員が同じベクトルで授業改善にあたっているが、これが軌道に乗ってきていることから自己評価の数値も高くなってきている。

イ
学校運営の
状況

自己評価Aと外部 評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意識もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

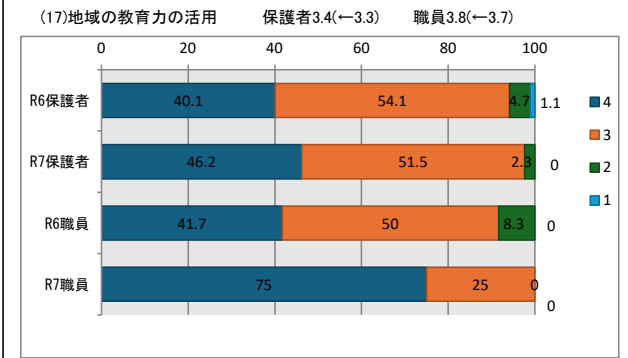
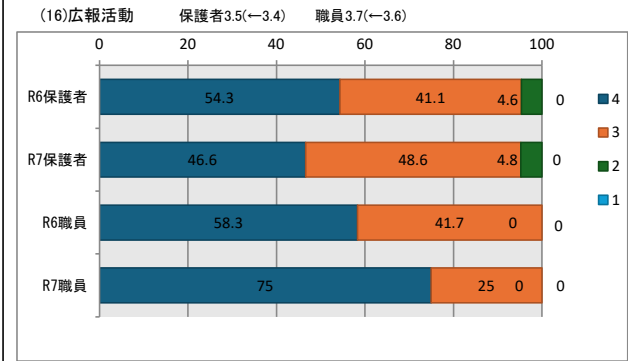
V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	ホームページやブログ、お便り等で学校の情報、子どもたちの様子をタイムリーによく伝えている。ホームページの更新はもう少しこまめにしたい。地域人材の活用やPTAとの協力もよく行われている。
	年度			

自己評価 学校の 校務の 要 改と 善 策	【前期(一年度)】 (16)昨年度、成果が得られた取組を継承し、学校の教育方針や学校行事における生徒の様子について、学校報や学校HP、学校ブログ、連絡メール等で情報発信してきた。保護者の95%から肯定的な回答を得ており、昨年度と同様の成果が得られたと受け止めている。一方、4の回答の割合が減少したことについて、年度当初の学校ブログの更新時期の遅延が原因と捉えている。今後は即時性を大事にして、タイムリーに情報を発信していきたい。 (17)地域・保護者との連携についても保護者の97%から肯定的な回答を得ており、4の回答も増加している。地域コーディネーターによる花壇作業等、保護者による夕焼け奉仕作業等、地元講師によるキャリア講話、有志生徒による地域行事への参加等、地域、保護者、学校が関わりながら教育活動を推進することができたと捉えている。後期も生徒の健やかな成長を後押ししていただけよう地域・保護者の理解及び支援を得られるようにしていきたい。
	【年度(一次年度)】

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
10 情報の受発信と学校開放	(16)広報活動の充実と学校開放	・学校報、メールでの保護者への情報発信 ・HPを利用した地域・社会への情報発信 ・学校開放の実践(保護者・地域)	4		4	
11 地域の教育力の活用	(17)地域・保護者等と連携・協働した教育活動	・PTA活動の充実や地域学校協働本部事業の活用 ・地域及び学校間の連携・協働のための連絡調整と活動の促進	5			

(主なデータ)



データから見える成果と課題

- (16) 95%以上の保護者と職員が肯定的な回答をしている。現在ブログを無料で提供しているサイトが11月から無くなってしまう。現在、代替となる無料サイトへの移行を進めており、よりよいタイミングで周知を図る予定である。
- (17) 平均値がもっとも高い。キャリア講話での人材活用、アルミ缶回収などへの協力、地域ボランティアへの住民参加、たけのこまつりなどのイベント等、地域資源をフル活用している。